

中小企業支援専門部会（令和4年2月18日開催）主なご意見

1 資金繰りについて

- (1) コロナの長期化により資金繰りが困窮している企業への支援をしてほしい。コロナの終息がみえず不安がある。
- (2) 過去最高益の業界もあり、大きな影響はない。
- (3) 手元資金が潤沢な企業も多く、それが預金に跳ね返っている。
- (4) 一部の企業からは、追加融資や返済についての相談がある。1年据置にしたところが、予想以上にコロナの影響が長期化したため、据置を3年にして返済期間を延ばしたり、キャッシュフローと返済額のバランスが取れない場合は、借入をまとめて返済期間を長くするなど、返済負担の軽減を図っている。
- (5) 融資の返済財源を確保するためには経営改善支援が必要。課題解決のほか、販路開拓、魅力的な店舗づくり、HP作成など収益アップのための相談員を増員し派遣するサービスを実施している。
- (6) 小規模事業者、特に生活関連サービス業の資金繰りが厳しく、廃業が増えている。創業を増やしていかないといけない。

2 脱炭素への取組み

- (1) 中小企業ではCO₂削減はコスト面で採算が合わず、現状はモノを売るのに精一杯。
- (2) アンケートを実施したところ、会員企業の9割が脱炭素の取組みの必要性を感じていると回答しており、意識は高い。
- (3) 脱炭素は、今後企業が生き残っていくうえで避けられないテーマである。リサイクル商品の研究開発を進めている。
- (4) 省エネ型の製造を行うため、県内の大学の力を借りて、燃焼効率やCO₂の発生調査をしている。
- (5) 脱炭素に関する勉強会や講演会、先進企業見学会を開催している。
- (6) 工程ごとにCO₂排出量が見える化し、各工程でどれだけ削減できるかを検討していかなければいけない。
- (7) 自動車関係の下請け中小企業では、大手の取引企業から、各工程でCO₂をどれだけ排出しているか数字を出すように求められている。事業者も脱炭素に取り組まなければならないと感じているが、どこから取り組めばよいかわからない企業が多い。団体としても、情報交換や事例紹介などを通して支援しているが、県とし

でも支援を行っていただきたい。

- (8) 脱炭素への取組みへの融資制度や補助金をお願いしたい。金融機関には伴走支援をお願いしたい。

3 事業承継

- (1) コロナ禍は、経営者が自社について考える踊り場の期間ではないか。事業継続の分岐点。
- (2) 業界によっては、若い世代への引継ぎが行われているところもある。次世代リーダー候補者育成セミナーを開催している。
- (3) M&Aは企業力がないとできない。コストがかかることも課題。
- (4) 経営者の高齢化が進む業界にとっては、喫緊の課題となっている。団体では、支援制度の周知やセミナー等を実施している。
- (5) 富山県新世紀産業機構内の「事業承継・引継ぎ支援センター」と連携して支援している。